

令和6年度 第3回学校運営協議会（令和7年2月3日） 議事録

開会にあたり、校長・准校長あいさつ

校長：本日はありがとうございます。

准校長：お忙しい中、ありがとうございます。感染症の拡大もなく、作品展も無事終了いたしました。さて、この度お詫びとご報告がございます。高等部教員による不適切な指導及び不正受給があり、処分となりました。昨年度6月、体罰防止などの注意喚起を行っている中で、この事案が発生。被害生徒についてはその日に謝罪、受け入れていただいております。当該教員において指導等を行ってきた中で不正受給も発覚しこの度の処分にいたしました。

この件につきましては2月12日臨時保護者会を行い、全教職員については全校研修などを進めていきます。ご心配、ご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんでした。再発防止に取り組んで参ります。引き続き今後ともよろしく願いたします。

資料の確認

1. 令和6年度 学校経営計画（評価）について

校長：自己評価△印の部分について、バスの乗車時間60分以内の設定については無理であった。来年度限りなく近づける。大阪市に近いところは遠いが、在籍状況によって、緩和される予定。IT機器の普及、3ポイント満たせなかった。来年度については研修内容についてニーズを拾う形で実施。個人情報についても△。情報発信、WEB発信しているが伸びない。目標設定が高かった。5の(1)(ア)については服務規律違反が発覚したため△。研修のありかたについて研究部に一括、日程調整やニーズなどを拾いながら実施していく。学校自己診断については後程ご説明させていただく。

准校長：進路について。今年度高等部1年生が実習を行った。保護者のニーズも高く、今年度はもっとスムーズにしていく。中学部では、昨年度よりバーチャル見学会実施し、成果が上がっている。職業コースの特色作りについて、少しずつ人数が減っていているため、内容を精選しながらやっていく。

鈴木会長：たくさんある中で質問は？

三輪様：職業コースについて、挨拶が気になる。大きな声でこちらが挨拶するとやっと答えが返ってくる。ちゃんと声をかけてくれる先生もいるが、挨拶と返事は大事。教員の研修で取り入れてもらってしっかりやっていったらと思う。

鈴木会長：基本的に人間関係を構築するためにも挨拶は必要。初対面では自分から挨拶できることが大事。先生方の人間関係を構築するためにも大事。わかっているけど体が動かないということもあるだろう。自身も過去にとっつきにくいと思われたこともあり、それは大失敗、反省している。新転任の先生には当たり前のことだが管理職が初めに言うことで、首席や指導教諭、幹部候補の先生方にも頑張ってもらいたい。バスについて、とても長いコース、下校の時は事故が起きたりする中、できる

だけコースは毎年見比べて変更していただいているとは思いますが、身近に感じるためにも実際に乗って、体験していただいて乗車時間が短くなるよう努力していただけたらと思う。研修が予定とおり取れなかったということ、毎年大変だと思うがタイムリーな研修もあろうかと思う。そんな研修も組み込む柔軟性も持ってほしい。予定変更はしんどいが他人事にならないように。

射場様：バスについて、よく学校がここまでされている。ご苦労されているのだと思います。

三輪様：挨拶のことについて、教員同士のコミュニケーションもしっかり取れていたら、今回の教員の事案についても防げたのではないか。日々研修という気持ちで仕事に取り組んでいただけたら。管理職の言葉も研修と思って。

2. 令和7年度 学校経営計画（案）について

校長：めざす学校像の中期目標の多くは変更なし。来年度変わるところは学校教育自己診断の回答率を100%にすること。バスのルート60分以内という目標については、以前の知事が発信。校区が広い中で対応していかなければならない。マイクロバスを増やす要望も出したが今年度は叶わず。引き続き要望していく。周りの目が人を育てていく。モラルや意識があがっていくが、そこに至るまでが困難。今年度の研修は、全体の研修を見るところがなかった。複数の研修がぶつかるようになったため、来年度交通整理を研究部に委ねる。WEBについては今年もっとできたと思うが、来年度も引き続き取り組んでいきたい。

准校長：挨拶については残念。キャリアを意識していく中でもコミュニケーションについては基本の「き」。挨拶ができていないと思わせてしまっていることが残念。誰に対してもできるように頑張っていきたい。教育活動の資本に昨年度作ったキャリアマトリックスが入っていけるように監修などをおこなっていく。新しい取組みとして、地域支援センター的機能についてだが、小中については実施してきたが高等学校にも周知しようとしてきた。来年度にはそのルートをつくる。現在山田高校からも相談いただいている。支援部中心に行っていく。進路については、具体的な進路のイメージを持たせることに重きをおいて、ジョブコースの選定、社会に向けての授業にしていく。

吉田様：新しく始まる就労選択支援事業についてです。これまでB型に希望があれば自動的に行くことができたが、一旦入所してしまうと1%しか就労に繋がっていなかったというのが現状。新1~2年生からが対象で、本人の力の見極めをするための事業が始まってくる。本来なら一定期間お試しの後見直す形だったがそこがしっかりなされてなかったことにメスが入ることになる。

三輪様：研修のブッキングがあるとのことについて、動画配信などで、来られなかった先生にも提供などは。

校長：しているが、講師に快諾いただけないこともある。校内で視ることは問題はないが、ネットにあげることが難しい部分もある。許諾が得られれば…。先生方も研修だけではなく、会議などで忙しい現状もある。基本的にはオフラインの方が質問などもできるメリットが大きい。できる範囲ではやっている。

射場様：教員対象にしたビジネスマナーの取組みの意図は？

准校長：卒業後どのようなことが求められているのかが、わかるような研修を考えている。

まとは：まず先生方にビジネスマナーの基本を教えるということか？

准校長：教員は基本的なことは既に持っていると考えますが、子どもたちにどこから教えていくかをイメージが持っていない教員もいるため。

射場様：生きる教育についてどのようにお考えか。

松田：本校では今年度性教育も踏まえて“生教育”として小学部段階から系統立てプログラムを作り、生きる力の育成を行っていく。その中でコミュニケーションやマナーについても学べるよう、カリキュラムの中に入れていく。

校長：ビジネスマナーを教員が学ぶというのは伝統的に行っている。まず教員が学ぶ、そこから生徒が学ぶ。実はわかっていない部分もある。例えばドアのノック、本来マナーとしては4回やるなど、スタンダードを知ることが大事。過去にマンガムや資生堂、化粧品を教えてもらうという取組みも行っていった。マナー違反なお化粧品などは使い勝手が悪い、そういったことも学ぶ。それがいいかと。

准校長：職業コースについてはやっている。今後は職業以外にも必要だと思っている。

鈴木会長：キャリアマトリックスがいかされていく、シラバスに載せるのも良いかと思うが、教育計画、指導計画たくさんある中で、先生方の整理ができていくかという心配はある。基本的に職業観を全ての子どもにつけてやるのは大事だが難しい部分もある。段階にあったキャリアマトリックスを。血をつける肉をつけるということをやってほしい。保護者は少しの可能性でも期待している。自立に一步踏み出す、その機会を学校がやってくれれば。引っ張りあげる雰囲気学校全体にあれば。

生野聴覚支援学校の生徒の事故、大阪地裁では健常者の85%という判決を出した。高裁はそれがおかしいという判断。社会が変わってきている。子どもたちの可能性を信じてやってほしい。子どもには伝わる。良い学校になると信じている。

3. 令和6年度 学校自己診断アンケートの評価について

平水：今年度は教員、保護者にさくら連絡網でアンケートを取った。今年度は教員の回答率が68%に下がっている。保護者は増えているが子どもはかなり下がっている。一人で回答できる生徒が少なかった、教員の意識の低下もあると考える。27番「学校での研修や授業研究は充実している」について、今年度は6%程度下がっている。研修のブッキングなどが原因と考えられる。会議や行事と重なり有意義に受けることができなかった。全員が研修を受けられるよう、また、ニーズに合った研修を計画していくことが必要。「学校ははじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」に対し、生徒の肯定率は上がっているが、一方で否定的な答えもある。あまりあてはまらないと答えている教員は、教員に相談しているも納得できていないのではと心配している。生徒に寄り添うよう、教職員の人権意識が大事。回答率が低いのは、さくら連絡網でのアンケートで、流れてきた、読んだというだけで流れてしまっていたことが原因かと考えられる。100%にしていかなくはならないため、来年度の回答方法については検討が必要。

三輪様：生徒の（自由記述欄）ところ、「みんなの好きな事をする行事をすれば良いと思う」という発想が嬉しいなと思いました。相談できるような先生があまりいない、という生徒については、例えば親などその他でいたらよいが、全くいないのであれば、とても心配だ。その子の状態がどうなんだ

ろうと思いながら話を聞いた。回収率は、私自身も回答したかなと不安。操作が簡単なだけに記憶が飛んでいる。先生方も皆考えてやっているんだということも含めて周知してほしいと思う。

吉田様：三割程度が出さなくなったことの検証、アンケートの意図の説明、意識づけは、必要。学校を良くしていくためにもアンケートは大事。もっと工夫をされた方がよいのでは。

校長：昨年度もデジタルでのアンケートだった。今年はよく使うさくらで行ったが、さくらは煩雑でたくさんのメールが飛んでくる。本文を見ていない。これは仕事だという、そのことが徹底されていなかった。職員会議でも今回のことについて周知は行った。来年度は紙が一番かとも考えたが、集約が大変。この結果はWEB公開もするが低い、何故？となるだろう。100にしなければならない。今年は大失敗だったと反省している。

射場様：情報提供の質問について、教職員はDと答えた人が6名。保護者との差はどこにあると考えられるか。

平水：この6名に関してはさくら連絡網をあまり使っていないと推測される。

射場様：先生方の自己評価が厳しい。

平水：さくら連絡網を発信していない教員の声だと。

校長：HPなどとなっているので、さくら連絡網のことだけではない。HPはだんだん閲覧数が少なくなっている。さくら連絡網での情報発信が多く、WEBを見る必要がなくなってきているので、来年度課題。デジタル化されているという評価はできるが来年度は変えていく。

鈴木様：68%という数字は何かの間違い？出さないということはどういうことか。意見がばらけるのは仕方ないが、これだけ出せていないのは驚き。次年度これを続けたら大変なこと。元々90後半はあったはず。先生方の意識改革含めて、これは仕事、教員にとっては仕事。是非お願いしたい。

4. 令和6年度 授業アンケートの結果について

木崎教頭：(資料に沿って説明) 1回目については前回の運営協議会でお伝えした通り。2回目と年間としての説明をさせていただく。前年度までは時期を分散していたが、今年度からは全校一斉に1週間設けて実施。校内駐車が禁止になったことで参観などの授業を見ていただく機会についても影響している可能性もある。回収数は大幅な変化はない。回収率は一人の保護者が複数出されていることもあるので、参考までに見ていただけたら。中学部ではもう少し原因も含めて検討。学部毎に分析コメントまとめている。小中学部、高等部は普通課程や生活過程、によって授業の進め方も変わってくるので保護者の見方も変わってくる。研修などを進める中で継続して授業づくりを行っている。筑波大学付属の支援学校の先生方のお話も聞かせていただきながら進めていっている。授業に対する意識は高まってきている。キャリアマトリックスも個々の子どもたちの状況にあった課題設定、子どもの実態に合わせた授業はできてきていると考えている。難しかったという意見については、子どもたちのニーズに合っていなかった部分と、簡単なものだけではなく、次の課題を見据えた上で設定したものが難しく感じられたのかもしれない。難しくても簡単でもキャリアをもっと浸透させていけたらと考える。アンケートはできる限り多くの数を出していただいて客観的な評価ができるよう継続し

て働きかけていく。

射場様：学校教育自己診断アンケートの回答は4択、授業アンケートは5択、何故か？

木崎教頭：府からの様式に沿って作成している。

校長：学校教育自己診断アンケートと授業アンケートは別のところが作っており、主旨が違うため別となっている。

吉田様：授業アンケートは良い意見が多い。お子様の能力的に色々ある中で難しいという感想が出てくるのは当然。そこも踏まえて役立てていただけたらと。

鈴木会長：筑波大学にサポートいただいたとなっているが、府のセンターから先生がくる、これは特別に関りがあるということか？

校長：過去4年程はセンターにお願いしていた。ずっとは難しい。筑波大学はトップクラスの研究機関。縁があって年6回程度の研修の内2回参画してもらっている。(2年目)

鈴木会長：授業アンケートはしっかりやっていただいているが毎年やることに意味がある。自身もこれ以上はないという、100点満点の授業はやったことがない。ベテランの先生程そうだろう。保護者が見ているのは授業。教材を突き詰めていくか、今日は適当にやるか、見る人が見るとわかる。保護者の信頼を得るには子どものためにやるという姿勢を。それをやって初めてプロと言える。それがベース。授業アンケートのためにやるのではなく、日々の授業をこつこつ大切にやってほしい。

三輪様：授業アンケート、来年回答数減るのではないかと心配。今年度はなるべく同じ授業を見るようにした。1学期心配だった教員に、2学期成長が見られた。素直に受け取って頑張ってください

ことが嬉しかった。

鈴木会長：学校としては良いことを仰ってくださったと思います。やって良かったと思うと思うので日々努力をお願いします。議事は以上となります。

木崎教頭：ありがとうございました。

5. その他

特になし。

6. 意見書について

本日付けでなし。

以上で終わります。審議すすめることができました。ありがとうございました。

